

## 総合的な学習の時間で活用する ～勤労、公共の精神～

宇部市立原小学校 佐々木 智子

### 1 本場面におけるポイント

- 道徳の時間（「終末」）に活用し、「働く」ことの尊さを知る。  
道徳の時間において、働くことや社会に奉仕することの意義を理解し、「私たちの道徳」の文中キーワード『三方良し』の言葉から自分なりの考えを探る。
- 地域人材を招へいした総合的な学習の時間に活用し、児童の意識をさらに高める。  
総合的な学習の時間に地域人材を招へいし、再度「私たちの道徳」の内容を活用することで、身近な地域の方の話から自分なりの考えを深める。
- 日常の生活の中で活用し、自主的・積極的な実践へつなげる。  
一連の学習内容のキーワード等を掲示し、これからの生活に生かそうとする関心意欲を高める。

### 2 授業の実際

1 単元名 HBK（原美化クリーン）大作戦！

2 展開 「私たちの道徳」活用の実際

(1) ステップ1：体験活動【総合的な学習の時間 2時間】

- 指導上の留意点・支援・「私たちの道徳」活用のポイント等  
総合的な学習の時間に、ボランティアとして校区内の『駅前花壇づくり』を行う。地域の方々との協働作業を体験する中で、各自が「働くこと」への気付き等をもつことができるようにする。



ボランティア活動

(2) ステップ2：「道徳の時間」

- ① 主題名 役立つことを「牛乳配り」  
(出典「5年生の道徳」：文溪堂)
- ② ねらい

働くことの意義とその喜びを知り、進んで人のため社会のために役立つようとする心情を育てる。

教師：花壇づくりをしている時に、どんなことを考えてしていましたか？

- A児：ちょっとめんどくさいなあ！・・・と思ったよ。
- B児：一生懸命やっていたら、少しずつ面白くなってきたよ！
- C児：地域の人たちが、喜んでくれたのがうれしかったよ！
- D児：みんなでやり終わったら、気持ちがすっきりして気持ちよかったね！

- 指導上の留意点・支援・「私たちの道徳」活用のポイント等

終末で、「私たちの道徳」P152の近江商人の『三方良し』の言葉を紹介し、働くことの意義や社会奉仕をする喜びを、自分たちの体験と連動させながら体得できるようにする。

展開での自己の振り返りの際に、事前の体験活動が共通体験になり、お互い

の思いや考えを交流させ、意見交換が活性化する。事前に体験活動を仕組むことで、各自の振り返りがしやすくなる。「私たちの道徳」P155への記入もできる。

**(3) ステップ3：地域人材「原こころの先生」【総合的な学習の時間 2時間】**

□ 指導上の留意点・支援・「私たちの道徳」活用のポイント等

校区の住職である「原こころの先生」を招へいし、地域の方々の願いや思いを聞く場を設定する。学習の内容等について、事前の打ち合わせをし、道徳の時間と連動させ「私たちの道徳」の関連ページ（P152～154）を活用してもらう。



地域人材：原こころの先生の授業

社会奉仕や「働く」という意義等について、「原こころの先生」から様々なお話を聞くことで、これまでの体験活動や道徳の時間に学んだことを、再度、自己内で結び付けて考える時間となるようにする。

**(4) ステップ4：日常の生活の中で**

□ 指導上の留意点・支援・「私たちの道徳」活用のポイント等

「私たちの道徳」の学習内容（P152）や印象的なイラスト、体験活動等の様子（写真）等を掲示することで、無意識に一連の学習を振り返り、日常生活の中で「働く」ことの尊さを、更に意識できる環境をつくる。

**3 実践を振り返って**



私たちの道徳 P152

○ 「私たちの道徳」P152に出ている近江商人の考え方である『三方良し』をキーワードにして、「働く」ということの意義を理解すると、道徳の時間から離れてもこのキーワードは生きてくる。日常生活の中の様々な場面で『三方良し』を合言葉にして、児童が公共のために役立つように、みんなのために役立つように、という意識をもって実践へとつなげていくのに有効であった。

○ 「体験活動（総合的な学習の時間）・道徳の時間・日常の生活」のそれぞれの場面で「私たちの道徳」を繰り返し活用し、連動させることによって、児童の内面に以下のようなものが融合され、道徳的な価値が少しずつ育まれてきた。

・ 体験活動により体得した自分なりの気付き・発見から得られるもの（感覚的なもの）

- ・ 道徳の時間の中で培われた道徳的価値の理解から得られるもの（心情的なもの）
- ・ 日常の生活や地域人材等（外部の指導者）により導き出された、道徳的価値の再認識から得られるもの（知的なもの）

様々な活動を意図的・計画的に結び付けながら、「私たちの道徳」（P152～155）を一連の学習の中で継続的に活用することで、児童はより高められた実践意欲をもって次の体験活動や行動ができるようになった。